

西表島の植物誌

木本類 (その1)



林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター

はじめに

西表島は日本最大規模のマングローブ林をはじめとする亜熱帯の原生林とわが国最大のサンゴ礁「石西礁瑚」に囲まれ、固有種であるイリオモテヤマネコをはじめとする希少な野生動植物が生息・生育する豊かな自然環境に恵まれています。

この西表島に国有林野を活用し自然再生活動に取り組むNPO団体や環境教育に携わる教育関係者等への支援活動の強化等を図るため、西表森林環境保全ふれあいセンターが平成16年4月に設置されました。

同センターでは、これまで西表島の小・中学校の学校行事である西表島横断、古見岳やテドウ山の登山、登山前の事前学習会等の支援を行ってきました。また、森林環境教育の教材として、「西表島での自然環境教育カリキュラム」、「西表島の名木集」等を作成し、西表島の小・中学校に配布し、活用いただいております。

今回、森林環境教育の教材として「西表島の植物誌」を作成することができました。これは、西表島は固有種が多く、全国的な植物図鑑ではなかなか植物名が特定できないこともあり、西表島での森林環境教育を推進する上において、是非とも必要な教材でした。

本書は、西表島でのフィールドを活用した自然再生活動に取り組む教育関係者、行政機関、各種団体、西表島の自然環境に関心のある方々の一助になれば幸いです。今後ともご意見、情報等を頂きながら、さらに補完・充実させていきたいと考えております。

最後になりますが、本書の発刊までに多くの皆様方にご指導ご協力を戴き、かつ具体的なお意見等を賜りましたことに対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

九州森林管理局長 沖 修司

目次

木本類^{もくほんるい}..... P 1 — P 99

草本類^{そうほんるい}..... P 101 — P 122

シダ植物^{しよくぶつ}..... P 123 — P 128

街角の植物^{まちかど しよくぶつ}..... P 129 — P 138

参考資料^{さんこうしりよう}

西表島の概要^{いりおもてしま がいよう}..... 参考資料^{さんこうしりよう} 1 — 参考資料^{さんこうしりよう} 3

この本の使い方^{ほん つか かた}..... 参考資料^{さんこうしりよう} 4

用語の解説^{ようご かいせつ}..... 参考資料^{さんこうしりよう} 5 — 参考資料^{さんこうしりよう} 11

検索^{けんさく}..... 参考資料^{さんこうしりよう} 12 — 参考資料^{さんこうしりよう} 16

もくほんるい
木本類
(その1)

オヒルギ

科名: ヒルギ科
別名: アカバナヒルギ
学名: *Bruguiera gymnorrhiza*

属名: オヒルギ属
方言名: アカバナー



▲ 花



▲ 胎生種子



▲ 川面に漂う胎生種子



▲ 森の巨人たち100選「ウタラ川のオヒルギ」



▲ 膝根

● マングローブ林の上流部に生育し、西表島のマングローブの中では一番大きな集団(群落)を作っています。花(萼)の色が赤いことから、別名をアカバナヒルギといいます。地下根から水面上に伸びた呼吸根は人間の膝を曲げたような形をしているため膝根と呼ばれています。実は胎生発芽(胎生種子といいますが)し、長さ約20cm、径約2cm位の鉛筆のような形をしています。落下した種子は地面に突き刺さり発芽することもあります。大部分は水に流され漂います。生育分布の北限は奄美大島です。

メヒルギ

科名: ヒルギ科
別名: リュウキュウコウガイ
学名: *Kandelia candel*

属名: メヒルギ属
方言名: プシキ、タンガーPsi、マチヤPsiキ



▲ 胎生種子をつけたメヒルギ



▲ 花



▲ 胎生種子



▲ 板根

● マングローブ林の中では下流部に生育します。西表島では、仲間川の一部と浦内川など島の西部で良く見られます。花は白色で萼は5枚です。実は長さ約20cm、径約1.5cm位の胎生種子となります。地上根は板根を作り台風による強風でも幹が倒れないよう丈夫になっています。分布の北限は鹿児島県喜入町です。

ヤエヤマヒルギ

科名: ヒルギ科
 別名: シロバナヒルギ
 学名: *Rhizophora stylosa*

属名: オオバヒルギ属
 方言名: トンダプシ、マツアプシキ、プシキ



▲ 支柱根と呼ばれるタコ足状の根を出す



花撮影日：2008. 12. 09

▲ 花



▲ 胎生種子



▲ 葉は対生し、葉先は針状に尖る

● マングローブ林の中では下流部に生育し、西表島の全域でよく見られます。花は白色で萼が4枚です。実は長さ約20cm、径約1cm位の胎生種子となります。地上根は支柱根と呼ばれるタコ足状の根を多数広げ、強風でも幹が倒れないよう丈夫になっています。分布の北限は沖縄本島です。

マヤプシキ

科名: ハマザクロ科
別名: ハマザクロ
学名: *Sonneratia alba*

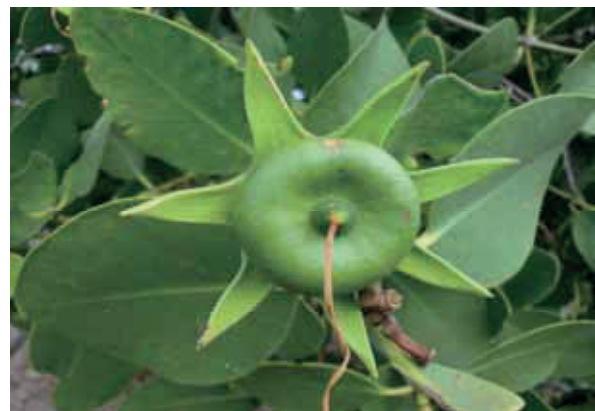
属名: ハマザクロ属
方言名: マヤプシキ、マザプス



▲ 地中から突き出した根(通気根)は筍に似ていることから筍根と呼ばれている



▲ 花は花びらはなく、めしべが白く見える



▲ 実の中には100~200個の種子が入っている

● マングローブ林の最も海側部分に生育します。高さ約10m位になります。地中から突き出した通気根(筍根)が特徴です。西表島では大原から古見までの東部地域に多く生育し、西部では数本程度が確認されているだけです。実がヤマネコ(マヤ)のおへそ(プシキ)に似ていることから、マヤプシキといいます。また、実の中の種子がザクロに似ていることから、別名ハマザクロといいます。分布の北限は西表島です。

ヒルギダマシ

科名: クマツヅラ科

属名: ヒルギダマシ属

学名: *Avicennia marina*



▲ 筍根を地中から突き出している(手前の幼木はヤエヤマヒルギ)



▲ 花



▲ 実

● マングローブ林の最も海側部分に生育します。高さは、熱帯地方では20mを超えるそうですが、西表島では2m程度で円盤状に広がっています。地中から通気根(筍根)を出しますが、マヤブシキの筍根より細くて軟らかです。葉は対生し、細長い卵形をしていて、根から吸い上げた塩を葉の裏面から排出します。分布の北限は宮古島です。

ヒルギモドキ

科名： シクンシ科

属名： ヒルギモドキ属

方言名： マツアープシキ

学名： *Lumnitzera racemosa*



▲ マングローブ林の最も陸域部分に生育する



▲ 花



▲ 実

● マングローブ林の最も陸域部に生育し、高さは西表島では約5m程度になります。花びらが5枚の小さな白い花をつけます。実は楕円形で小粒です。葉は両面で光合成ができる仕組み(等面葉)になっており、葉の先は凹形です。西表島では船浦湾など西部地域でよく見られます。分布の北限は沖縄本島です。

ニッパヤシ

科名：ヤシ科

属名：ニッパヤシ属

学名： *Nypa fruticans*



▲ 国指定の天然記念物「船浦湾のニッパヤシ群落」



▲ 花穂



▲ 実

● 西表島が世界の分布北限で、船浦湾と内離島の2箇所だけで確認されています。船浦湾のニッパヤシ群落には現在、約35株が生育しています。ニッパヤシは幹がないので、地上には葉だけが出ているように見えます。熱帯地方では葉を屋根葺きの材料などに使っています。実は球形で、硬い種子を持ちます。

サキシマスオウノキ

科名: アオギリ科

属名: サキシマスオウノキ属

方言名: ダイミョー、ダイミョーキ

学名: *Heritiera littoralis*



▲ 森の巨人たち100選「仲間川のサキシマスオウノキ」



花撮影日: 2009. 06. 09



み実

▲ 新芽は赤味を帯びた葉

▲ 花

●西表島では仲間川をはじめ各地の河川沿いに多く見られ、高さ20mを超える大木になります。板状の根(板根)を持つのが特徴です。葉は新芽の時期は赤味を帯びており、成葉の裏面は銀色です。花は小さく花びらの内側は紫色をしています。実はウルトラマンの頭によく似ています。古見集落には国指定の天然記念物「古見のサキシマスオウノキの群落」があります。



み実

サガリバナ

科名: サガリバナ科

属名: サガリバナ属

方言名: ジルカキ、ジュルカキ

学名: *Barringtonia racemosa*



花撮影日: 2007.06.26



▲ 花びらは4枚で雄しべはきわめて多い



▲ 葉

▲ 花は名前のとおり垂れ下がる



▲ つぼみ



▲ 地上に落ちた花と幼木

● 河川沿いや湿地に群落を作ることが多く、高さ約10m程度になります。葉は長楕円形で長さ30cm位になり、秋には紅葉することもあります。花は白または淡い紅色で4枚、ピンク色をした雄しべが多数ついており、川面に落ちた姿は幻想的です。実は卵形でやや四角ばり、長さ5-6cmです。落下した実は水に浮かぶようになっていて、流され着地し発芽します。西表島では7月から8月頃、カヌーによるサガリバナツアーが各地で行われています。

ゴバンノアシ

科名: サガリバナ科

属名: サガリバナ属

方言名: ジルカキ、ジュルカキ

学名: *Barringtonia asiatica*



花撮影日: 2009.12.01



み
実

●海岸に生える常緑の高木で高さ10mにもなります。葉は艶があり大型で30cm以上、花は夜に咲き雄しべが多数つき先の方が紫色を帯びてとても綺麗です。実は4-5角形で名前の由来となった「碁盤の脚」に似ています。環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種 I A類にランクされています。

サキシマフヨウ

科名: アオイ科

属名: フヨウ属

学名: *Hibiscus makinoi*



花撮影日: 2008.12.17



み
実

●人里付近に生え、高さ2-4mの落葉または半落葉の低木または小高木です。秋から冬にかけて、西表島の県道沿いに白色~ピンク色の花が咲いているのをよく見かけます。野生種のハイビスカスの仲間です。

ガジュマル

科名: クワ科

属名: イチジク属

方言名: ガチバナキ、ガショーニ、ガザムネ

学名: *Ficus microcarpa*



じゆけい
樹形



みかのう
実(花囊)

●屋久島、種子島以南の海岸や低地に生育する高さ約10m、大きいものでは20mに達する常緑の高木です。無花果(花囊)と呼ばれる実を多数つけ、鳥やコウモリなどの餌になります。無花果(花囊)の中には1.5mm程の小さな種子が入っており、鳥などによって運ばれた種子は他の樹木の幹や枝に定着し発芽した後、気根を伸ばしその一部が地について枝を支える支柱根となり四方に枝葉を茂らせます。とりつかれた植物は締めつけられやがて枯死してしまいます。

モダマ

科名: マメ科
別名: コウシュンモダマ
学名: *Entada phaseoloides*

属名: モダマ属



花撮影日: 2008.08.22



しゆし
種子



みとうか
実(豆果)

●大型のつる性の常緑木本で海岸近くの常緑樹林内に生えます。大きなものは幹の径30cmにも達します。葉は互生し、偶数羽状複葉で2、4または6枚の小葉を対生につけます。花は穂状花序で長さ約12-25cm、たくさんの花をつけます。実(豆果)は大きく、長さ80-120cm、幅7-12cmにもなり、9-13個の種子を入れてあります。(実(豆果)の写真: 西表野生生物保護センター提供)

シノキカズラ

科名: マメ科
方言名: ケーナカツツア
学名: *Derris trifoliata*

属名: ドクフジ属



はな
花

花撮影日: 2009.09.05

●つる性の常緑の小高木で海岸近くの林内に生えます。葉は奇数羽状複葉で5-9枚の小葉からなっています。小葉は対生し長さは5-9cmです。花は白色または紅色を帯びています。名前はシイの木(ブナ科)の葉に似ていることからつけられました。ドクフジ属の名前のおり有毒です。昔は殺虫剤として使われました。

ナンテンカズラ

科名: マメ科

属名: ジャケツイバラ属

方言名: アトモドレ、バラカツツア

学名: *Caesalpinia crista*



花撮影日: 2009.02.27



み
実

●海岸近くの林縁に生え、つる性の常緑木本です。葉は偶数羽状複葉で小葉はふつう3対つきます。また、葉の軸には逆向きの刺があります。花は腋生し総状花序で、黄色い花をたくさんつけます。実は豆果で1個の種子が入っています。名前はナンテンの葉に似ていることからつけました。

ハスノミカズラ

科名: マメ科

属名: ジャケツイバラ属

方言名: サルカチャー、ヤヌプスカツツア

学名: *Caesalpinia globulorum*



花撮影日: 2009.12.11



み
実



しゅし
種

●大型のつる性の常緑木本で、山地の谷間に生えています。枝と葉軸に目だつた逆向きの刺があります。葉は偶数羽状複葉で4-8対の小葉が対生しています。実は豆果でたくさんの刺がついており、種子が3-4個入っています。種子は黄色味を帯びた白色で、大きさは径10-12mmです。名前は蓮(ハス科)の実に似ていることからつけられたそうです。

アオガンピ

科名: ジンチョウゲ科
別名: オキナワガンピ
学名: *Wikstroemia retusa*

属名: アオガンピ属
方言名: カミキ



花撮影日: 2007.11.12

◀ はな み 花と実

●原野や海岸などの荒れ地に良く生え、高さ1-3mで枝が良く分かれていて常緑から半常緑(6-7月頃一時落葉)の低木です。花は緑黄色で枝先につき、実は楕円状球形で赤色に熟し有毒です。樹皮は和紙を作る原料になります。

ミズガンピ

科名: ミソハギ科
方言名: イワホーキ、ハマホーキ
学名: *Pemphis acidula*

属名: ミズガンピ属



花撮影日: 2007.07.30

◀ はな み 花と実

●海岸に生え、満潮時には根元が海水に浸かってしまう所でも生育しています。葉は対生し、長さ1.5-2.5cm、幅0.5-1.2cmと小さく、また、表と裏がはっきりせず、両面で呼吸ができる仕組み(等面葉)となっています。

シマシラキ

科名: トウダイグサ科
 別名: オキナワジンコウ
 学名: *Excoecaria agallocha*

属名: セイシボク属
 方言名: メンプキ、ミーシプキ、ミフクラギ



花撮影日: 2007.08.27



ようぼく
幼木

●海岸や汽水域に生育し、マングローブ林に準ずる種とされており、高さ10m以上に達する常緑の高木です。葉は互生で革質、ガジュマルの葉に似ていますが、葉柄が約2cmと長くなっています。葉をちぎると出てくる白い樹液は有毒です。花は穂状花序です。雌雄異株。

ヤエヤマネムノキ

科名: マメ科
 方言名: ハマクワ、パマクワ
 学名: *Albizia retusa*

属名: ネムノキ属



●海岸に近い森林にまれに生え、高さ約15mにも達する落葉の高木です。葉は偶数羽状複葉で長さ10-12cm、小葉は楕円形で対生、長さ2-4cm、幅1-2cm、葉先はやや凹形です。西表、石垣島のみで生育します。

イボタクサギ

科名: クマツヅラ科
別名: ガシヤンギ
学名: *Clerodendrum inerme*

属名: クサギ属
方言名: ハマカニン



花撮影日: 2008.04.10



▲ 花

◀ オキナワアナジャコの
巣塚を覆っているイボタク
クサギ

● マングローブ林の後背地でよく見られる半つる性の低木です。葉は対生し傷をつけると臭いがします。花は枝先にふつう3個ずつ咲き、白色か紅色を帯びることがあります。雄しべは長く紅色を帯びています。

ハマゴウ

科名: クマツヅラ科
学名: *Vitex rotundifolia*

属名: ハマゴウ属



◀ 花

● 海岸の砂地に群生する小低木で、茎は砂の中をはって地上に直立し、長さは1.5m-3mくらいになります。葉は対生し全縁、裏面には灰白色の毛が密生し、白っぽく見えます。花は淡い紫色をした小さなロート状の花で枝先に円錐花序に多数つけます。

花撮影日: 2008.06.03

ミツバハマゴウ

科名：クマツヅラ科

属名：ハマゴウ属

学名： *Vitex trifolia*



花撮影日：2008.06.25

●海岸近くに生え、高さ2m以上に達し直立または斜上する常緑の低木です。葉はふつう3出複葉ですが、単葉、2葉も混生します。小葉は全縁で葉柄はほとんど無く、葉の裏面には灰白色の毛が密生しハマゴウに似ますが、葉先は少し尖っています。花は円錐花序で淡い紅紫色で枝先に多数つけます。

ヤエヤマハマゴウ

科名：クマツヅラ科

属名：ハマゴウ属

学名： *Vitex trifolia var. bicolor*



花撮影日：2008.12.04

●西表島・石垣島の海岸近くに生え、高さ8m、径10cm以上に達する常緑の高木です。葉は普通5枚の小葉からなる掌状複葉ですが、3枚(3出複葉)のものも混生します。花は小さい淡紫色です。西表島の船浮に自生しているものは、沖縄県の天然記念物に指定されています。

モンパノキ

科名: ムラサキ科
別名: ハマムラサキノキ
学名: *Messerschmidia argentea*.

属名: スナビキソウ属
方言名: ソーキギ、ハマスーキ



花撮影日: 2007.04.28

●海岸に生え、高さ10mくらいに達するものもある常緑の小高木です。葉は多肉質で枝先に集まってつき、銀灰色の長い毛が密生しています。枝先に白い花が集まって咲きます。木材は漁師の海中メガネの枠材として使われました。

クサトベラ

科名: クサトベラ科
別名: テリハクサトベラ
学名: *Scaevola sericea*

属名: クサトベラ属
方言名: スーキ



花撮影日: 2009.04.09

●海水や強風によく耐え、海浜の砂地、岩石の間などに生育し、高さ2mに達する常緑の低木です。枝はまばらに分かれ、小枝は太く径1cmにもなりますが、もろくて折れやすい木です。葉は集まり、卵状の柔らかいへら状で、艶があり、長さ10-15cm、幅4-6cmの大きな葉をもちます。花は腋生し、白色から黄色に変わります。

オキナワキョウチクトウ

科名: キョウチクトウ科
別名: ミフクラギ
学名: *Cerbera manghas*

属名: ミフクラギ属
方言名: ミーフクラギ



花撮影日: 2007.05.31



● 海岸近くや河川沿いに自生していますが、最近では街路樹として植栽されており、高さ10mを超えるものもある常緑の小高木です。実は大きく緑色からえんじ色に変わり熟します。葉や枝を切ると白い樹液が出てきます。樹液は有毒で目に入ると腫れることからミフクラギと呼ばれています。

フトモモ

科名: フトモモ科
方言名: フードキ、フードー
学名: *Syzygium jambos*

属名: フトモモ属



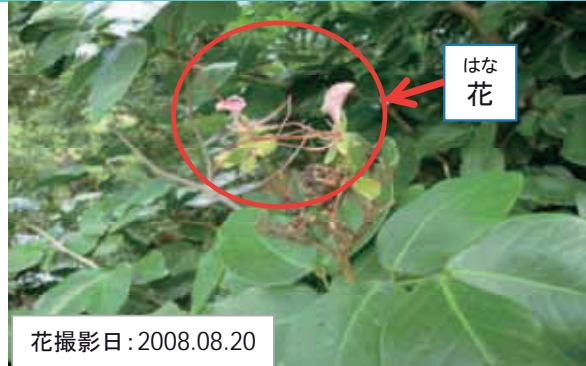
花撮影日: 2009.01.19

● 溪流沿いなどに生え、高さ10mにも達する常緑の小高木です。葉は対生し、長楕円形で葉先は鋭形です。花は白色またはみどりいろをおびています。実は熟すとおうほくよくとなりバラのような匂いがして、味は薄いが甘くて生で食べることができます。インド原産の果樹として栽培されていたものが野生化したといわれています。

タシロマメ

科名: マメ科
別名: シロヨナ
学名: *Intsia bijuga*

属名: タシロマメ属



花撮影日: 2008.08.20

●海岸や河口近くの低地に生え、高さ15m位になる常緑の高木です。葉は偶数羽状複葉で小葉は4枚、薄い革質で光沢があります。花は白または淡い紅色で枝先につきます。材が堅くシロアリに強いことから建築材などとして利用されていましたが、明治初期までには激減しました。環境省のレッドデータリストで「絶滅危惧 I A類」に指定されています。

クロヨナ

科名: マメ科
方言名: アワキ、オバキ、ウバキ、ハビロ
学名: *Pongamia pinnata*

属名: クロヨナ属



花撮影日: 2008.08.20



●海岸近くの林内に生える15m位になる常緑の高木です。葉は小葉が5~7枚の奇数羽状複葉です。花は淡い紅色で枝先に房状に多数つけます。実(豆果)は長さ5cm、幅3cm位の楕円形で径15mm位の種子が入っています。実(豆果)は海流によって流れ種子が散布されます。

オオハマボウ

科名: アオイ科
別名: ユーナ
学名: *Hibiscus tiliaceus*

属名: フヨウ属
方言名: ユナキ、ユーナキ



花撮影日: 2009.02.27

●海岸の砂泥地によく生える常緑の小高木で、高さ5m～10m位になります。葉は丸いハート型で先はやや尖っています。葉の縁は全縁または細かいギザギザ(鋸歯)があり表面は光沢があります。直径10cm位の丸くて黄色い花をつけます。

サキシマハマボウ

科名: アオイ科
方言名: マヤマキ
学名: *Thespesia populnea*

属名: サキシマハマボウ属



花撮影日: 2008.12.10

●オオハマボウと同じで、海岸の砂泥地によく生え、常緑の低木または小高木で、高さ5m～10m位になります。葉は円形または三角形でオオハマボウよりは葉先が尖ります。花ははじめは黄色ですが、のちに紫色を帯びてきます。

テリハボク

科名： テリハボク科

別名： ヤラボ

学名： *Calophyllum inophyllum*.

属名： テリハボク属

方言名： ヤラブ、ヤラブキ



はな
花

花撮影日： 2009.06.27



み
実

●海岸などで防潮湿、防風林に利用されており、高さ20m、胸高部の径80cm以上になる常緑の高木です。葉は対生し、革質、楕円形で長さ15cm、幅5cmくらいになります。また、葉の側脈は多数の平行脈になっています。花はふつう夏に咲きますが、数回咲くことがあります。白色で芳香があり径2cm～2.5cmです。実は核果で核内に1個の種子があります。材は堅く建築・家具材として利用されます。

フクギ

科名： テリハボク科

方言名： フカイキ、フクンキ、フケーキ

学名： *Garcinia subelliptica*

属名： フクギ属



やしきりん う
屋敷林として植えられています



はな
花

花撮影日： 2007.04.28



み
実

●街路樹、防風林として住居近くにあるものは植栽したもので、野生種は山林に生え、高さ15mに達する常緑の高木です。葉は対生し、厚い革質で長楕円形、葉の側脈の数は少なく、葉の縁に向かい曲がって伸びます。花は乳白色で長さ約7mm。実は液果で3～4個の種子が入っています。

アダン

科名: タコノキ科
 別名: リントウ、カネカダン
 学名: *Pandanus odoratissimus*

属名: タコノキ属
 方言名: アダーヌキ



み
実

●海岸の近くの荒れ地や湿地などによく生え、高さ2-6mになる常緑の小高木で、太い枝をまばらに出し、支柱根を出します。葉は革質で縁には鋸歯状の短いトゲがあります。実は集合果でパイナップルによく似ています。実は食べられますが、あまり美味しくありません。ヤシガニが食べます。

ツルアダン

科名: タコノキ科
 方言名: ヤンダヌ、ヤンダル、ヤンダリヤン
 学名: *Freycinetia formosana*

属名: ツルアダン属



花撮影日：2008.06.06



み
実

◀ 花は枝の先端につく

●山地の樹木の幹などに気根を絡ませよじ登り、長さ10m以上にもなる木本のつる性植物です。葉は線形でやや柔らかく、縁には小さな鋸歯状のトゲがあります。花の咲く頃は、甘い香りが周辺に漂います。実は集合果で円筒形、長さ8-13cm、幅約2cmで赤く熟します。

イソフジ

科名: マメ科
別名: ケクララ
学名: *Sophora tomentosa*

属名: クララ属
方言名: イカヌタマグ

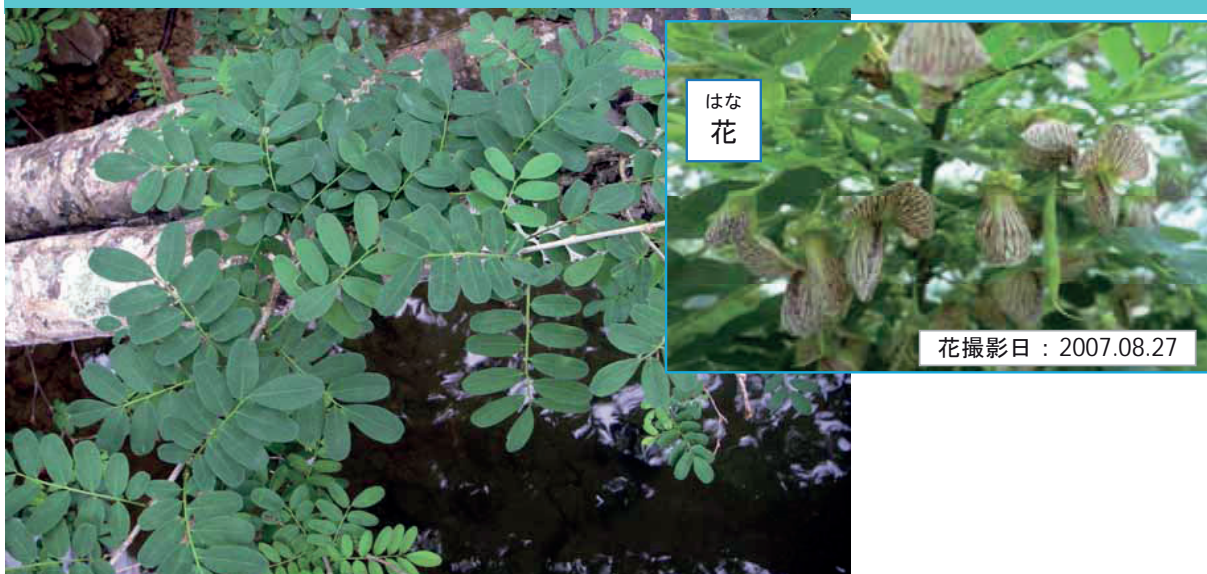


●海岸に生え、高さ3mほどの常緑の小高木または低木です。葉は奇数羽状複葉で5-8対の小葉をつけます。葉の裏面にはピロード状で灰白色の軟毛を密生します。黄色の総状花序の花をつけます。実(豆果)は数珠状で、長さ8-10cmとなり4-8個の種子が入っています。

ハマセンナ

科名: マメ科
別名: ハマエンジュ
学名: *Ormocarpum cochinchinense*

属名: ハマセンナ属
方言名: シタツキ



●海岸に生え、高さ約6mにも達する小高木です。葉は12-16枚の小葉をつける偶数羽状複葉です。枝や葉に毛はありません。花は、淡黄色地に紫褐色の脈があり目立ちます。実は5-8個実り、種子は落下後、海水に浮いて漂流し分布を広げます。

リュウキュウコマツナギ

科名： マメ科

属名： コマツナギ属

学名： *Indigofera zollingeriana*



花撮影日：2009.04.17



実

●海岸近くの山の裾野や原野に生育し、高さ1-2mの低木です。葉は羽状複葉で長さ10-18cm、5-8対でほぼ対生します。花は円錐花序で花軸から多数の蝶形で紅色をしています。実(豆果)は細い円柱状で長さ2.5-4cm、幅3-4mmで、5-10個の種が入っています。

オオシマコバンノキ

科名： トウダイグサ科

属名： タカサゴコバンノキ属

別名： タカサゴコバンノキ

学名： *Breynia officinalis*



あか きゅうけい み
赤い球形の実をつけたオオシマコバンノキ

●石灰岩や隆起サンゴ礁地域に生育し、高さ1.5-2mになる常緑の低木で、枝は細く、二叉状によく枝分かれます。葉は互生し、長さ2-4mmほどの短い柄があります。葉は、卵状の楕円形で、葉先は円形などとなります。葉の基部は広いくさび状となり、葉の長さ2-4cmです。また、葉の表面は緑色で無毛、葉の裏面は灰白色です。実は腋果で卵状の球形をしており、径約5mmになり、紅色または淡い紅色に熟します。

ハマビワ

科名: クスノキ科

方言名: ビートモ

学名: *Litsea japonica*

属名: ハマビワ属



ちようだえんけい は
長楕円形の葉をつけるハマビワ

● 沿海地に生育し、高さ約7mの常緑の高木で、小枝は太く、葉柄に綿のような毛、葉の裏などに黄褐色の毛が生えます。葉は革質で互生し、長楕円形で長さ7-15cm、幅2-5cmです。葉の表面は無毛、深緑色で光沢があります。葉柄の長さは15-40mmです。実は大きく楕円形で長さ15-18mm、灰紫色に熟し、実の基部は杯のような筒に包まれます。

アカテツ

科名: アカテツ科

方言名: トウモキ、トウムキ

学名: *Pouteria obovata*

属名: アカテツ属



● 海岸に面した平地などに生育し、高さ約10mに達する高木もあれば、低木になるものもあり、小枝に赤い褐色または灰褐色の短い毛が生えます。葉は革質で長楕円形となり長さ5-9cmです。葉の裏面には小枝と同様に赤い褐色の毛が密に生えます。花は腋生で多数咲き径5-6mmです。花の色はごく淡い灰白色ですが、まれにしか咲きません。実は黒色のような藍色に熟します。

台湾ウオクサギ

科名：クマツヅラ科

属名：ハマクサギ属

別名：シマウオクサギ

方言名：パビルキ

学名： *Premna corymbosa* var. *obtusifolia*



み
実

花撮影日：2008.08.03

●低地や山裾の荒れ地によく生育し、高さは約10mに達する常緑の小高木です。葉は対生し、丸い卵形で長さ6-17cm、幅4-10cmです。花は枝先に集まって咲き白色をしています。実は球形で径3-4mmで黒っぽく熟します。琉球に生育します。

ショウロクサギ

科名：クマツヅラ科

属名：クサギ属

別名：ショウロクサギ

学名： *Clerodendrum trichotomum*



花撮影日：2008.08.03



は
な
花

●低地や山裾の荒れ地によく見られる高さ約8mの落葉の高木です。葉は対生し、三角状の卵形で葉先は鋭尖形です。夏には枝先に香りのする白い花を多数咲かせます。実は球形で青く熟し、紅色の開出した宿存萼の上につきます。葉は食用になります。

オオバギ

科名: トウダイグサ科

属名: オオバギ属

方言名: アハトウリキ、クルキ

学名: *Macaranga tanarius*



●低地から山地の荒地や林の縁などに生育し、高さ4-10mの常緑の小高木で、枝は太く、若木の時には毛が生えます。葉は互生し、傘を広げたような特徴のある盾状の形をしており、10-25cmと大型で、葉の先は尾状形をしています。葉柄の長さは6-15cmです。花は腋生し円錐花序、緑黄色で小型の花が咲きまゝ。実は球形で黒く熟します。

ウラジロアカメガシワ

科名: トウダイグサ科

属名: アカメガシワ属

方言名: タビシチャ、シスタブシキ、シスカサイ

学名: *Mallotus paniculata*



●道沿いなどに生育し、高さ10mになる落葉の高木です。葉は互生し、卵状で長さ7-16cm、葉の先は鋭尖形で、葉の表面には蜜の出る場所があります。葉の裏は純白のやわらかい毛があり鮮やかな白色をしています。葉柄の長さは10-15cmです。花は小さく、実は円錐状に垂れ下がり、熟すと黒褐色になります。

アカメガシワ

科名： トウダイグサ科

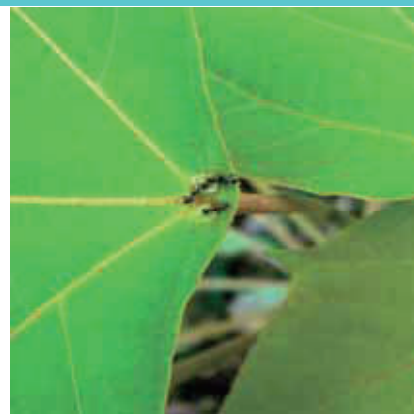
属名： アカメガシワ属

方言名： タビシチャ、タブシキヤマキ

学名： *Mallotus japonicus*



花撮影日：2009.10.25



は きぶ よ
葉の基部にはアリが寄ってくる

●平地や山地に生育し、高さ15mになる落葉の高木です。葉は卵形で互生し、葉柄の長さは5-20cmになり、赤みの強い褐色の色をしています。葉の表面の基部には蜜を出すところがあり、アリが寄ってきます。花は総状花序または円錐花序、長さは7-20cm、色は淡い黄色です。実は偏った球形で、熟すと黒くなります。

ヤンバルアカメガシワ

科名： トウダイグサ科

属名： ヤンバルアカメガシワ属

方言名： ザブルキ、サブロ

学名： *Melanolepis multiglandulosa*



は しんれつ
葉は深裂するものがある

●平地や山地に生育し、高さ15mになる落葉の高木です。葉は互生、形は卵形をしていますが、ときには3-5つに深裂します。葉柄の長さは5-20cmで緑色です。アカメガシワと同様に葉の表面の基部には蜜を出すところがあり、アリが寄ってきます。花は、黄色を帯びた緑色、円錐花序で、長さは7-20cmになります。

アミガサギリ

科名: トウダイグサ科

属名: アミガサギリ属

方言名: アカキネマ、アカタビ

学名: *Alchornea liukiensis*



は うら しろみ みどりいろ
葉の裏は白身ががった緑色

●低地の荒地などに生育し、高さ2-3mで落葉する低木です。葉の長さ6-18cmで互生し、葉はハート形で、葉柄は長さ3-10cmです。葉の縁には浅く細かな鋸歯があり、葉の裏は白みがかかった緑色となり、両面とも無毛です。葉の基部には蜜を出すところが2個あります。実は総状に付き径約1cmです。花の大きさは1.5mmほどです。雌雄異株まれに同株。

イイギリ

科名: イイギリ科

属名: イイギリ属

方言名: カサイ

学名: *Idesia polycarpa*



あか じゆく み
赤く熟した実

●山地に生育し、高さ15m以上になる落葉の高木で、木の皮は白っぽい灰褐色をしています。葉は卵形で、長さ10-20cm、幅8-20cmになり、葉の縁にはややまばらに鋸歯があります。葉の表面は緑色から濃い緑色、葉の裏は白色です。実は円形で径8-10mm、総状または円錐状に垂れ下がります。

ハスノハギリ

科名: ハスノハギリ科

属名: ハスノハギリ属

方言名: ウシヌシタキ、ウシンダニキ、トウカナチキ

学名: *Hernandia nymphaefolia*



たてじょうは
盾状の葉



み
実



花撮影日: 2007.07.04

●海岸近くに生育し、高さ7-20mの常緑の高木です。若い枝は緑色をしており、新しい芽には短い毛が密に生えますが、じきに無毛となります。葉は革質で光沢があり無毛、長さ10-30cm、幅8-20cmです。葉柄は盾状に付き、長さ5-15cmです。花は白色で、全体が短く柔らかい毛に覆われます。実は黒く熟し、楕円形の球形で長さ約2cmです。

ハテルマギリ

科名: アカネ科

属名: ハテルマギリ属

学名: *Guettarda speciosa*



花撮影日: 2007.05.04



み
実

●海岸沿いの林に生育し、高さ2-6mの常緑の小高木です。葉はさかさ卵形で葉先は丸くなっており、長さ10-22cmです。葉柄は短くて柔らかい毛が生えており、長さは1-3cmです。花は薄い黄色または白色、花が咲く時期は不規則です。実は液果で円形、径2-2.5cm、そのままの形で海に流されていきます。

ハリツルマサキ

科名: ニシキギ科
別名: グンバイウメヅル
学名: *Maytenus diversifolia*

属名: ハリツルマサキ属
方言名: マッコー、ンマキ



花撮影日: 2007.10.21

●海岸の石灰岩の上に生
育し高さ1-2mの常緑の低
木で、まれに4mになる木も
あります。枝は灰色で、短
い枝と長い枝があり、長い
枝には長さ0.5-1cmの鋭い
とげができます。葉は卵形
をしており、葉先は円形ま
たは凹形に浅くくぼみ、長さ
2-3cm、幅1-1.5cmになり、
葉の縁は浅い鋸歯がありま
す。花は白色、径2-4mmで
す。実は倒卵形、長さ約
6mm、径約7mmです。

フクマンギ

科名: ムラサキ科
方言名: パタングシャン、パチングシャマキ
学名: *Ehretia microphylla*

属名: チシャノキ属



花撮影日: 2009.03.09

●海岸近くの雑木林に生育する高さ1-3mの常緑の低木です。葉は束生しており、卵形で長さ2-5cmです。葉の表面は毛が生えておりざらつき、葉先は丸くなっていますが、まれに3つに分裂します。花は腋生し、白色の花が咲き、長さ1.5-4cmで葉柄の先に1-7個の花が咲きます。実は核果で丸い球形をしており径4mm、赤く熟します。

ヤエヤマアオキ

科名: アカネ科

属名: ヤエヤマアオキ属

学名: *Morinda citrifolia*



●海岸近くの湿った所に生育し、高さ2m前後の木をよく見かけますが、5mにもなる常緑の小高木です。葉は肉質で楕円形で光沢があり長さ10-25cm、幅5-13cm、葉先は短く尖る鋭形です。花は白色で5つに分かれ、実は液果で互いにくっつき、やわらかい卵形の集合果をつくり、長さ4-5cm程度で熟すと白色になります。

カガツガユ

科名: クワ科

属名: ハリグワ属

学名: *Maclura cochinchinensis*



●海岸近くに生える常緑の低木で、枝はつるのように横に広がり、鋭いトゲもあります。葉は互生しやや厚く楕円形で長さ2-8cm、幅1-3.5cmです。葉の両面は無毛、葉の縁は全縁ときに1-3個の波形の鋸歯があります。実は集合果で径1.5-2cm、オレンジ色をしています。雌雄異株。

オキナワシャリンバイ

科名: バラ科
別名: モッコクモドキ
学名: *Rhaphiolepis indica var. Iiukuensis*.

属名: シャリンバイ属
方言名: トウカチキ、トウカーズ



● 海岸近くや低地に生育する常緑の低木です。葉は革質で光沢があり互生し長楕円形、長さ5-10cm、幅1-3cmです。葉先は鈍形、葉の縁はやや波形の鋸歯があります。白い花が咲きます。実は熟すと黒くなります。樹皮は染め物の原料として使われます。

リュウキュウトベラ

科名: トベラ科

属名: トベラ属

学名: *Pittosporum boninense var. denudatum*



花撮影日: 2009.02.06

● 海岸近くから松林などに生育している常緑の低木です。葉は革質で光沢があり互生し、枝の先に集まってつき、光沢のある楕円形をしており長さ5-14cm、幅1.5-2.5cmです。葉の両面ともはじめ柔らかい毛がありますが、のちに無毛となります。花は枝先に集まって咲きます。実は径1cmで、熟すと3つに裂けて赤い種が見えるようになります。雌雄異株。

リュウキュウツルグミ

科名: グミ科
別名: ヒロハツルグミ オキナワグミ
学名: *Elaeagnus liukuensis*

属名: グミ属



●白当たりのよい山地や林縁などに生育する常緑の低木です。枝は伸び、小枝は銀色を帯びた赤褐色をしています。葉は互生し薄い楕円形で長さ5~8cm、幅3.3~3.8cm程度です。葉先は細い鋭尖形、葉の裏は銀色を帯びています。花は銀白色、腋生で小さく、2-6個の花が総状に集まって咲きます。実は楕円形、長さ約2cmです。奄美大島以南から琉球にかけて生育しています。

グミモドキ

科名: トウダイグサ科

属名: ハズ属

学名: *Croton cascarilloides*



●亜熱帯地方の島々に生える常緑の低木で、高さは2m程度になります。葉は薄い革質で光沢があり、互生まれに対生または輪生し、長楕円形をしています。葉先は鋭尖形、葉の基部は鈍形で長さは6~15cm程度、幅は2~5cm程度です。花は小さく白い色をしています。雌雄同株。

モモタマナ

科名: シクンシ科
 別名: コバテイシ
 学名: *Terminalia catappa*

属名: モモタマナ属
 方言名: クバデサ、クバシキ、コハキ

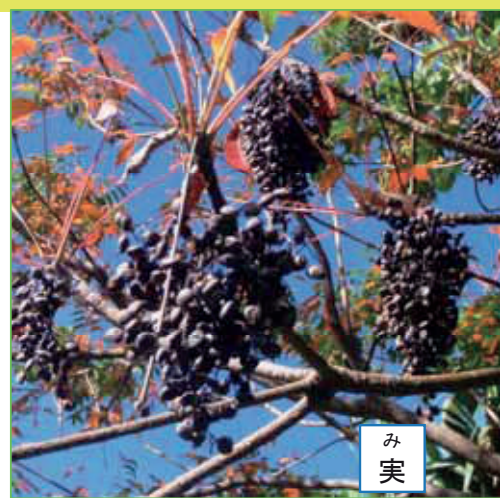


●公園や街路樹などに植えられている高さ15m以上にもなる半落葉性の高木で、幹の太さは直径1m程度にもなります。葉は革質で光沢があり、倒卵形で長さ20-25cmと大きく枝の先に密生してつきます。葉先は円形、葉の基部は耳状です。花は穂状花序で白く小さな花をつけます。実は核果で皮は繊維質、長さ3-6cmです。

ハゼノキ

科名: ウルシ科
 方言名: パジキ、ハジキ
 学名: *Rhus succedanea*

属名: ウルシ属



●低地から山地にかけて生育し、高さ15m程度まで生長する落葉性の高木です。葉は小葉が9~15枚の奇数羽状複葉、長さ5-12cm、幅1.8-4cmです。小葉は長楕円形で葉先は細い鋭尖形です。葉は気温が下がれば紅葉します。花は葉腋から長さ5-10cmの円錐花序を伸ばし、多数の小さな花をつけます。実は円錐状に鈴なりにつき、木口ウの原料になります。雌雄異株。

マルバチシャノキ

科名: ムラサキ科

属名: チシャノキ属

方言名: ケーチキ、ケーブ

学名: *Ehretia dicksonii*



●庭木として植えられている落葉性の小高木です。葉は互生し厚く、広楕円形などで長さ6-17cm、幅5-12cm、葉の表面は剛毛があるためざらつきます。葉の縁は鋸歯があり、葉の基部はくさび形あるいはハート形です。白い花が咲きます。実は核果で径約1-1.5cm、黄色く熟します。

リュウキュウチシャノキ

科名: ムラサキ科

属名: チシャノキ属

方言名: パジキ、ハジキ

学名: *Ehretia dichotoma*



●低地に生育する常緑の高木です。葉は両面無毛、楕円形で長さ10~12cm、幅4~6cmです。花は小さく白く、枝先に集まってつき、花びらは5つに分かれています。実は核果で球形、径4mmです。日本では西表島、石垣島に生育しています。

花撮影日: 2008.08.06

センダン

科名: センダン科

属名: センダン属

方言名: シンダン

学名: *Melia azedarach*



いりおもてしょうちゅうがっこう
西表小中学校のセンダン



花撮影日: 2009.03.26



は葉



み実

●低地や山裾などの石灰岩地帯に生育し、落葉の高木で高さ20mに生長するものもあります。葉は羽状複葉、小葉は卵形などで葉先は鋭尖形となり、長さ3-6cm、幅1-2.5cmです。花は円錐花序で白と紫色の花をつけます。実は核果で楕円形、長さ2cm程度で熟すと黄色になります。

ハマセンダン

科名: ミカン科

属名: ゴシュユ属

別名: シマクロキ

方言名: フンキ

学名: *Euodia meliifolia*



み実

●海岸近くや低地に生育し、高さ15m程度にも生長する落葉の高木です。若い枝にはわずかな毛があり、樹皮は灰白色をしています。葉は対生し小葉が7-15枚の奇数羽状複葉で長さ20-30cmです。小葉は卵形などで長さ3-10cm、幅1.5-3.5cm、葉先は鋭尖形です。花は集散花序で白色の花が咲きます。実は平たい球形で径7-9mmです。雌雄異株。

ギンネム

科名: マメ科
 別名: ギンゴウカン
 学名: *Leucaena leucocephala*

属名: ギンゴウカン属



撮影日: 2009.03.26



み
実



みつせい せいちよう
密生して生長するギンネム

●南アフリカ原産の小高木で、高さ8m程度まで生長します。葉は偶数羽状複葉、小葉は対生し長卵形で葉先は鋭形です。花は頭状花序で年中開花し白色で見た目はかわいい感じがします。一つの房に10個前後の種が入っています。日本には明治時代に飼料用、緑化用として持ち込まれましたが、繁殖力は旺盛で「世界の侵略的外来種ワースト100」に指定されています。

ソウシジュ

科名: マメ科
 別名: タイワンヤナギ、タイワンアカシア
 学名: *Acacia confusa*

属名: ソウシジュ属
 方言名: ソーシジュ



撮影日: 2008.05.12



み
き
幹



みつせい せいちよう
密生して生長するソウシジュ

●フィリピン・台湾原産の常緑の高木です。葉のように見えるのは葉の柄の部分で、葉は退化しています。花は頭状花序で腋生し黄色で少し甘い匂いがします。明治時代に緑肥用として持ち込まれ、繁殖力が強いいため西表島の県道沿線でみられます。

クサミズキ

科名: クロタキカズラ科

属名: クサミズキ属

学名: *Nothapodytes foetida*



み
実

●海岸林に生育する常緑樹で高さは5m程度ですが、さらに高くなることもあります。葉は互生、長楕円形などで葉の基部はくさび形です。葉の長さ10～20cm、幅6～10cmではじめの頃には毛があり、側脈は4～5対です。白色の花を多数つけます。実は核果で楕円形、熟すと黒紫色になり悪臭を発します。

シマウリノキ

科名: ウリノキ科

属名: ウリノキ属

学名: *Alangium premnifolium*



●低地に生育する落葉性の低木です。葉は互生し楕円形、長さ10～15cm、幅5～10cm、葉先は鋭形で托葉はありません。花は、2～5個の白い花が集まって咲きます。実は核果で長さ8～12mm、幅約5mmの楕円形、熟すと黒紫色になります。

フジボグサ

科名: マメ科

属名: フジボグサ属

学名: *Uraria Crinita*



撮影日: 2009.06.04



●西表島では、県道沿線の日当たりの良い場所に見られ、多年草の低木で高さ150cmです。花は地面から直立し、紫色の小さい花が集まって咲きます。葉にはトゲがあり、小葉は楕円形などで葉先は鋭尖形で、3~9枚の奇数羽状複葉です。

デリス

科名: マメ科

属名: ドクフジ属

別名: ドクフジ

学名: *Derris elliptica*



●殺虫剤の原料として低地で栽培されていたものが、現在は、野生化して各地で生育しています。大型のツル性植物で、長さ10mになります。葉の長さは20~35cmで、小葉は長楕円形などが4~7対集まった奇数羽状複葉です。原産地はインドからマレーシア地方です。

トウヅルモドキ

科名: トウヅルモドキ科

属名: トウヅルモドキ属

方言名: クーチ、クーチカツ

学名: *Flagellaria indica*



花撮影日: 2009.04.09



葉の先は巻きひげ状

葉と実 ▶

● 日当たりの良い林縁によくみられるツル性の植物です。葉の先が巻きひげのようになっており、他の植物等に絡みつきます。葉は長さ15~20cm、幅1.5~2.5cmと細長い被針形となっています。白い小さい花が多数つき、実は核果で球形、径約5mmで熟すと赤くなります。

ヌノマオ

科名: イラクサ科

属名: ヌノマオ属

学名: *Pipturus arborescens*



● 低地の日当たりの良い荒れ地や道沿いに生育する常緑の低木で高さ3~5mです。葉は互生し、ふつうは卵形をしています。長さ7~18cm、幅3~6cmで葉先は尾状形、葉の縁は鋸歯があります。葉の表面は毛があるためざらついており、葉の裏面は柔らかい毛が生えています。花は腋生し、白い花が集まって咲きます。雌雄異株。

ナワシロイチゴ

科名: バラ科

属名: キイチゴ属

学名: *Rubus parvifolius*



撮影日: 2009.03.26

●原野や道沿いに見られる落葉の小低木です。葉は小葉が3枚もしくは5枚あり、長さ、幅とも3~5cmです。葉の縁は鋸歯があり、葉の裏面には細い毛があり灰白色をしています。実は球形で熟すと赤くなります。

リュウキュウバライチゴ

科名: バラ科

属名: キイチゴ属

別名: オオバライチゴ

学名: *Rubus rosaefolius subsp. maximowiczii*



撮影日: 2008.02.15

●日当たりの良い山すそや林道の脇などに見られる落葉の小低木です。葉は小葉が3~7枚集まった奇数羽状複葉で、頂小葉は卵形または披針形です。茎等には小さいトゲがあります。径約2.5~3cmの白色の花が咲きます。実は球形で赤く熟します。

アカギ

科名: トウダイグサ科

属名: アカギ属

方言名: アカン、アカンギ

学名: *Bischofia javanica*



◀ 実

実みは熟じゆくすと褐かつ色しよくになる。



◀ 葉

3出葉しゆつようで頂小ちようしよ
葉うようは卵形らんけい、葉はさ
先きはは尾状形びしやうけい。

ピナイサーラの滝壺たきつぼへ向かう登山道むかにあるアカギの大木とざんどう

●海岸近くかいがんちかの林地りんちや低地ていちなどに広く分布し、大木ひろとなっているのをよく見かけます。また、緑化木ぶんぷとして道路たいぼくなどにも植えられており、葉みは3出複葉りよつかで、葉ぼくの縁どうろは鋸歯きよしがあります。アカギあかぎ(赤木なまえ)の名前は材ざいの色いろが茶褐ちやく色しよくであることからついたそうです。雌雄異株しゆういしゆう。

アカギモドキ

科名: ムクロジ科

属名: アカギモドキ属

学名: *Allophylus timorensis*

なみう
波打つ



▲ 葉はは3出複葉しゆつふくよう(3枚まいの小葉しょうようが集まり
ひとつの葉はになる)

◀ 実みは熟じゆくすと赤あかくなる(径けい6-8mm)

実

●海岸近くかいがんちかの林内りんないで見かけます。葉はは光沢こうたくがあり、3出複葉しゆつふくようで葉はの縁ふちは波打なみうっています。花はなは白く約3mmと
小さいものの、約5mm程ほどの赤い実あかになります。アカギモドキなまえの名前は葉はがアカギあかぎに似ていることからついたそ
うです。雌雄同株しゆうどうしゆう。

アコウ

科名: クワ科
方言名: アコーキ

学名: *Ficus superba* var. *japonica*

属名: イチジク属



◀ 実

● 海岸近くの林内に生え、高さは20mにも達する常緑の高木です。葉は互生、楕円形で葉先は鋭形、葉の側脈は6~8対、長さ8-15cm、幅4-8cmで全縁、両面無毛です。実は熟すと径約1cmの大きさになり、白色に淡い紅色を帯びます。鳥やコウモリなどの餌となり、糞に混ざった種子が他の木の枝や幹に落ち発芽して生長します。気根(幹から地面に向かって下がっている根)を伸ばして木に絡みつき枯らすことから絞め殺しの木と呼ばれています。雌雄同株。

オオバアコウ

科名: クワ科
方言名: アコーキ

学名: *Ficus caulocarpa*

属名: イチジク属



◀ 実

◀ 葉

▶ 樹形

▶ 気根



● 海岸近くの林内に生育し、アコウと同じ高さ20mにも達する常緑の高木です。葉は互生、長楕円形で葉先は鋭形、全縁で両面無毛、葉の側脈は9~11対とアコウより多くなっています。実は熟すと白くやや平たい球形で径6~7mmとアコウより小型です。オオバアコウも同じ絞め殺しの木と呼ばれています。

シマグワ

科名: クワ科
 別名: ヤマグワ
 学名: *Morus australis*

属名: クワ属
 方言名: コンギ、クワーギ、ナネーズ



めかぶ
雌株



撮影日: 2008.08.25

めかぶ
雄株

●海岸近くの山すそに見られる、高さ3~10mの落葉の低木です。葉は若木のときは深裂して色々な形になりますが、成木は卵状広楕円形で葉先は尾状形になります。長さ6~14cm、幅4~7cm、葉の表と裏には葉脈に短い毛があります。花は尾状花序で、葉腋から1個づつつきます。実は集合果で黒紫色に熟します。雌雄異株まれに同株。

カジノキ

科名: クワ科
 方言名: ウガチキ、クワーキ
 学名: *Broussonetia papyrifera*

属名: カジノキ属



み おかぶ
実(雄株)

撮影日: 2009.06.18

●石灰岩地域の低地林から山すそにみられる高さ4~16mの落葉の高木です。葉は互生し、披針形などでときに深く3~5つに深裂し、葉先は鋭尖形、葉の縁に小さな鋸歯があります。長さ10~20cm、幅7~14cm、葉の表面には堅く短い毛、裏面にはピロード状の毛があります。実は集合果で熟すと赤くなります。古くから布を作るのに栽培されていました。雌雄異株。

イヌビワ

科名: クワ科

方言名: シタバ、スタビ、イタバ

学名: *Ficus erecta*

属名: イチジク属



●海岸近くの林地から山すそにかけて生育する高さ3～5mの落葉の低木です。葉は互生、卵状楕円形で葉先は鋭形、基部はハート型、両面無毛で長さ8～20cm、幅3～8cmです。実は径約2cmで熟すと黒紫色になります。種は球形で径約1.3mm程度と小粒です。雌雄異株。

ホソバイヌビワ

科名: クワ科

学名: *Ficus erecta var. sieboldii*

属名: イチジク属



●海岸近くの林地から山すそにかけて生育する落葉の低木です。葉は細長い披針形で葉先は鋭尖形、葉の基部はハート形、葉の縁は波形です。葉の長さはイヌビワと同じぐらいですが、幅が1.5～3cmでイヌビワの葉と比較すると細くなっています。雌雄異株。

オオバイヌビワ

科名: クワ科

方言名: カブリキ、シスカブリ

学名: *Ficus septica*

属名: イチジク属



●低地の林内に生育する常緑の高木です。葉は光沢があり全縁、楕円形で葉先は鋭尖形です。長さ10～20cm、幅6～11cm、葉の両面とも無毛です。実は球形で大きさは径約2cm程度です。奄美大島以南から琉球にかけて生育します。雌雄異株。

ハマイヌビワ

科名: クワ科

方言名: ムイマー、モイマキ

学名: *Ficus virgata*

属名: イチジク属



み
実

●海岸近くの石灰岩地帯に生育する高さ3～7mの常緑の低木です。葉は互生し、革質、光沢があり、楕円形で葉先は鋭尖形、長さ7～20cm、幅3～8cm、葉の両面とも無毛です。実は球形で大きさは径約1cm程度で、熟すと赤色から暗紫色となります。雌雄異株。

アカメイヌビワ

科名: クワ科

別名: コウトウイヌビワ、ハルランイヌビワ、テリハイヌビワ

学名: *Ficus bengutensis*

属名: イチジク属

方言名: クロカブリ、ヤマカブリキ、ヤマカブリ



あたらはあか
新しい葉は赤い



みきみ
幹についた実

●海岸近くの林や低地に生育し、高さ5~7mの常緑の木です。若い枝や葉が赤いことからアカメイヌビワの名前がついたそうです。葉は楕円形で葉先は鋭形です。実(花囊)は球形で、枝先や幹にもつきます。枝先や葉柄には荒い毛があります。雌雄異株。

ギランイヌビワ

科名: クワ科

別名: コニシイヌビワ

学名: *Ficus variegata*

属名: イチジク属

方言名: シスカブリ、アハカブリ



▲ 葉

◀ 実(花囊)が幹からでることから幹生果(花)と呼ばれます。

◀ 幹についた実

●八重山列島の石灰岩地域の林内に生育し、高さ15m以上の常緑の高木(大木)になります。高木(大木)になると根元に板根を作ります。幹には多数の球形の実(花囊)をつけます。ギランイヌビワのギラン(宜蘭)は台湾の地名からついたそうです。雌雄異株。

ムクイヌビワ

科名: クワ科

属名: イチジク属

学名: *Ficus irisana*



●低い土地に生育し、常緑の高木で、葉は互生し革質で全縁、卵形をしており葉先は鋭形、長さ6-11cm、幅3-6cmです。実は球形で径1cm程度の大きさ、熟すと黄色または赤黄色になります。種子は長さ1mm程度の楕円形をしています。雌雄異株。

ホソバムクイヌビワ

科名: クワ科

属名: イチジク属

別名: キングイヌビワ

方言名: ムクシタマ、ムスクタマ

学名: *Ficus ampelas*



●低地の林内に生育し、常緑の小高木です。葉は互生でやや革質、全縁で楕円形をしており葉先は尾状にやや尖ります。実は葉腋から1-2個出ます。径7mm程度の大きさで熟すと赤くなります。奄美大島以南から琉球にかけて生育します。雌雄異株。

ウラジロエノキ

科名: ニレ科

方言名: フクイ、フクイキ

学名: *Trema orientalis*.

属名: ウラジロエノキ属



側脈

● 低地から山地の荒れ地に生育する常緑の高木です。樹皮は平滑で灰白色をしています。葉は互生し、表面には短い毛があり触るとざらつきます。葉の大きさは長さ5~12cm、幅2~6cmで細長いハート型、側脈は4~5対となっています。葉の裏には毛が密生し、銀白色をしています。葉の縁は小さな鋸歯があります。実は核果で球形、径3-4mmで熟すと黒色になります。成長が早いので護岸用に植栽されたりします、材は柔らかく器具材として利用し、樹皮からは繊維が採れます。

クワノハエノキ

科名: ニレ科

別名: リュウキュウエノキ

学名: *Celtis boninensis*

属名: エノキ属

方言名: ナリヤンキ、ナーリヤマキ



実

● 日本の固有種で海岸近くの林内に生育する落葉の高木です。葉は互生し長卵形や卵形で長さ5~11cm、葉の半分ぐらいから先に鋸歯があります。葉先は鋭尖形、葉の基部は広くさび形か円形です。実は核果で球形、径5~7mmで赤褐色に熟します。熟した実は鳥が好んで食べます。